第 15 回　第３次丹波市総合計画審議会　会議録

日時：2024 年８月６日（火）
10:00～12:00
場所：本庁第２庁舎２階ホール

【出席者委員】（敬称略）
上羽　裕樹、岸本　好量、竹内　真子、森本　斉、芦田　基、大野　亮祐、坂本　康子、
足立　はるみ、金川　方子、杉岡　秀紀、山口　洋子、池畑　美帆（12 名）

【欠席者委員】（敬称略）
植木　光敏、河南　光夫、柳瀬　長明、貫吉　直（４名）

【事務局】
細見副市長、清水ふるさと創造部長、磯﨑総合政策課長、垣内政策係長、足立沙織主事、
足立将人主幹

【傍聴者】
２名

配布資料：【資料１－１】　第３次丹波市総合計画（案）について
【資料１－２】　議会の意見・対応一覧
【資料１－３】　第３次丹波市総合計画（案）に関するパブリックコメントの結果について
【資料２】　答申書（案）について
【資料３】　第３次丹波市総合計画　概要版（案）
【資料４】　小・中学生の絵画作品一覧

１．開会

２．あいさつ
【会　長】　15 回重ねてきた審議会も本日が最後となる。
先日参加した丹波市議会未来プロジェクトでは、地元の高校生が参加し、開かれた市議会になってきたと感じている。この総合計画審議会についても、皆様のおかげで開かれたものにできた。最後となるため、本日は一人ひとりご発言いただきたいと思う。
【副市長】　本日の審議会を最後とし、議会提案に向け答申をいただくこととなる。本日は、パブリックコメントや議会からの意見を受けて最終の審議をお願いしたい。また、こどもも大人も分かりやすい概要版の作成についてもご意見をお願いしたい。皆様には２年間に亘る審議をいただき、お礼を申し上げる。市民、こどもたちの想いが計画に反映され、丹波市の未来につながるものとできたと思っている。最後の審議について、よろしくお願いしたい。

３．協議事項

（1）第３次丹波市総合計画（案）について パブリックコメント、市議会議員総会のご意見を受けて

【資料１－1、１－2、１－3】

・・・・事務局より資料１－1、１－2、１－３について説明

（2）第３次丹波市総合計画（案）の答申について【資料２】

・・・・事務局より資料２について説明

（3）第３次丹波市総合計画概要版（案）について【資料 3】

・・・・事務局より資料３について説明

【会　長】　議会やパブリックコメントを受け、修正した資料ができあがっている。パブリックコメントでは、ご意見をしっかり受けとめ、約 60 件のご意見を計画に反映できている。もちろん反映できなかったご意見もあるが、個別計画で対応するなど回答を記載いただいている。概要版についても、今まで出た意見は、概ね反映できていると感じる。デザイン的にもゴールに近いものを作成してもらっている。本日は最後の審議会なので、この意見が反映されていないなどあれば、どのような切り口でも良いので意見を出してもらいたい。修正がない場合も、これまでの審議会の感想をいただきたい。

【委　員】　資料３の２、３ページで項目名が「丹波市ってどんなまち？」となっているので、その下の３つの紹介文もタイトルを「～のまち」というように統一するのはどうか。「子育て」か「安全・安心」の項目に医療についての説明も入れるのはどうか。「伝統・文化」の説明文に「まちなみ」とあるが、「風習」とするのはどうか。「まちなみ」がどのようなものを示しているか分かりづらい。「観光」の説明文に、もみじだけでなく、年中通していろいろな風景があるため、四季折々の花といった表現にしてどうか。
ウェルビーイングの考え方など、新しい学びがあった。将来の世代を意識した 10 年であるといったことを、総合的に認識して考えた計画となった。今後、将来像を実現するための市民の努力を支える施策に取り組んでほしい。庁内組織の編成や職員の研修などにも期待したい。

【事務局】　タイトルを「やさしく温かい人が住むまち」など「～するまち」という表現に統一を検討したい。「医療」や「風習」といった、各説明文の表現についてご意見をいただき、これらの文章はもう少し成熟させるつもりであるので、本編の施策との整合も図ったうえで文章の補強をさせていただく。

【委　員】　資料３で「観光」について触れられているが、もみじだけでなく他の花々について触れたほうが良いと思う。ゲストティーチャーとして学校に行き、こどもたちに地域のことを伝えることがある。こどもたちに郷土愛について話す際、どう伝えるかこれまでも悩んでいたがこの概要版がいいヒントになる気がしている。また、計画本編でも、まちづ

くりの目標に、今回こども政策が入ってきたのが非常に良かったと考えている。この計画が絵に描いた餅にならないよう、地域の皆様が十分理解できる施策の展開をお願いしたい。

【会　長】　こどもたちの接点として、概要版を使っていただくという視点については、学校だけではなく、地域やいろんな大人がこどもたちと対話するツールとして活用してもらいたい。まちづくりの目標の一番最初にこども政策があるのはめずらしいため、これが一つのメッセージになると思っている。これが絵にかいた餅にならないようにするということが市と市民の約束である。

【委　員】　資料３について、良くなったと思う。地図に各地域の特色ある施設を掲載するのはどうか、という意見が反映されていないように思う。二次元コードがあるので、そこから確認する形になるのか。また、スポーツについて、女子高校野球は多くの人が知っており、市としての宣伝にもなっている。ここまで持ち上げてきた地域の人たちや歴史をたたえていく必要がある。概要版が自治会など地域で使われていくものとなったら良いと思う。この総合計画に沿って、各団体がそれぞれ自分たちの仕事に落とし込み、つながっていくことが大事だと感じた。

【会　長】　総合計画を浸透させていくことは、難しいことではあるが、つくってお終いではなくて行政が PR し続けていくことが大事である。

【事務局】　２ページの地図は、今回の資料で修正が十分に追いついていない現状である。道路が濃い青、河川が薄い青というのも分かりにくいと思うので修正を予定している。久下村駅より南に駅が記載されているところも修正が必要である。これらの修正と併せて、特色が分かるような地域資源についても表現を検討していきたいと考えており、できあがりをお待ちいただきたい。

【委　員】　資料 1－1 の 12 ページにも地図があり、分かりにくい印象を受けた。資料３の３ページの「仕事」の写真は、何をしている写真か分かりにくい。全体的には、非常に読みやすいものになったと思う。総合計画に関わってきて、自分自身の勉強になった。できるだけ多くの人に見てもらいたい。丹波市がどのような取組をされていて、自分の住むまちがこのようなところなのかと知っていただくものとできたと思う。

【会　長】　審議会をしながら、こんな施策や視点があったのかと、学びながら関わってくることができた。今度は、これらの学びを伝えていく責任があると考えている。

【事務局】　本編の 12 ページの地図については、製本の際は文字が読み取れるよう調整する。資料３の３ページの写真についても、「仕事」や「観光」の部分の写真をより分かりやすいものに差し替える。

【会　長】　デザインや写真については、ご意見を受けて、事務局の一任でお願いしたいと思う。

【委　員】　内容について、特に言うことはない。パブリックコメントの意見が 170 件ほど出ることはめずらしいと感じるが、これが 12 人からでなく、1 人 1 件として 170 人から意見が出ていれば、良かったと考えている。全体を通して、市民ワークショップなどでも活発な意見が交わされ、非常に良かったと感じる一方で、残念だったのは最後の市民説明会の出席者が少ないことであった。完成する総合計画を市民の一人ひとりが見てくれるか心配している。市民全員に本編や概要版が届く訳ではないので、あらゆる自治協議会や自治会活動などの機会で説明をしていけたらと思う。

【会　長】　パブリックコメントについては、回答者の人数は多くはない。いろいろな手段で広報はしていただいたが、市民としても、行政の情報を見に行くという文化がないというのが、今の丹波市の現在地であると思う。もっと関心をもってもらうには、市としても、おそらく広報課だけでは、力が足りないのではないか。審議会の皆様にも、まわりの人にももっと意見をしないといけないなど、声掛けをしていただきたいと思う。

【委　員】　資料３の３ページの「仕事」の説明について、世界に誇れる技術を持っている会社もあるが、そうでなくても創意工夫して丹波市に定住してもらおうと頑張っているところなどもあるので、これだけではもったいないなと感じる。教育委員会や青年会議所、商工会に関わらせてもらっているが、どの団体でもまちづくりが課題としてあり、総合計画がつくられているということを知らない若手の経営者もいるので、計画を知って、いろいろな取組を手伝えたらと思う。

【会　長】　「仕事」についての説明文で「会社“が”たくさんあるよ」より会社「も」と使うだけで印象が変わると思う。

【事務局】　市内で頑張っておられる企業はたくさんある。ご意見を踏まえ、修正させていただきたい。

【委　員】　資料３の２ページの地図に、河川の名前を入れてほしい。絵にかいた餅にならないようにしてほしいと思う。総合計画を知っている市民はあまりいない。そこに取り組んでいくには、５WIH を意識し、誰がそれをするのか、どのようにするのかを明確にしていくことが重要だと思っている。その点について、よろしくお願いしたい。

【会　長】　総合計画の策定にはすべての課が関わっており、広報課を含め、しっかりと総合計画の PR をしていってもらいたい。

【事務局】　地図については、全面的な見直しをしつつ、河川の名前を入れる対応をする。

【委　員】　資料３の３ページの「スポーツ」について、全国の女子高校野球だけでなく、市民スポーツやこどものスポーツについても入れられると良い。総合計画をの内容を読み込める人はなかなかいない現状はあるが、少しでも関わってもらう人を増やしていくことが大切だと思っている。今回、市民アンケートでも、こどもたちからもたくさんのご意見をいただいており、市民ワークショップなど、たくさんの人が関わって作成した計画なので多くの人の目にとまる計画とできたらと考えている。審議会は、毎回楽しく２時間を過ごせ、良い学びの機会になった。

【会　長】　スポーツについては、女子高校野球だけではなく、他のスポーツを感じられる表現ができるか。

【事務局】　代表的なものとして、女子高校野球を記載させてもらっている。それだけではないことは本編でもお示ししているが、概要版でも女子高校野球だけでない表現を検討する。

【委　員】　資料３について、決してこども版ではないということを覚えておいてほしい。こどもへのアンケートも積極的に取って、その想いを反映されてきたところだが、結局、親や周りの大人がこれをきっかけに会話をしていくことが必要だと考えている。こどもが学校で学んで帰ってきて、家で親に話したときに「ああ、そうなん」で終わるものにはしてほしくない。大人が見ても、なるほどと感じられる雰囲気に調整ができればと思う。資料３の３ページ、「食べ物」について、栗が最初に来ているのは何故か。丹波市は米の生産量が一番であるため、順番を意識した表現に修正してほしい。５ページの写真について、写真の名前が識別できないよう差し替えをお願いしたい。

【会　長】　こどもだけでないことも踏まえて、ルビをすべてに振るのをやめようという話も出ていた。親が選挙に行かないと、こどもも行かない。こどもたちだけでなく、親や周りの大人にもしっかり目を通してもらうための資料として調整いただけたらと思う。また、「食べ物」の説明文で、丹波三宝を押していきたいということもあるが、生産量で言えばお米であるといったご意見もいただいた。

【事務局】　栗や黒豆といった表現も、一般的なものとなっているため、「丹波栗」「丹波黒枝豆」といった丹波市を感じられるものに修正したい。５ページの写真については、手持ちの写真を確認させてもらいたい。現在、使用している写真は、協議の場でも笑顔で話している様子が感じられ、良いものだと思っているので、このまま採用する場合は、氏名は必ず識別できないようにさせていただく。

【委　員】　資料３について、前回から完成度が非常に上がった印象を受ける。この審議会では、委員が思うまま、いろいろな意見を言えるような、心理的安定性がある場となっており、良かったと思う。

【会　長】　総合計画の審議会だけでなく、様々な計画の協議の場でこのようなスタイルが採用され

ていけば良い。本当の意味で、市民の等身大の意見が聞けるのではないかと感じた。

【委　員】　資料３の５ページの「困っている人をたすける」は、この写真で本当に良いのか、前回の審議会で意見が出た気がするが修正できているか。最上段の項目名と真ん中の項目名に「まちづくりに参加しよう」と重複しているので整理したほうが良いのではないか。また、計画本編との整合性を見たときに、まちづくりの事例として挙げている６つの項目が、本当に市民に求めることになっているか違和感がある。資料３の４ページ「今を生きるこども」という表現も違和感がある。「みんなに選ばれるまち」という表現も、市民から言えば「誇れるまち」なのかと思うなど、結局どうなれば選ばれるまちとなるのか、あいまいな気がする。資料３の２ページの写真も、１枚で表現しなければならないので、どの写真を選ぶかは非常に難しい。恐竜の化石など、丹波市らしさが伝わる写真に差し替えたほうが良いのではないか。「仕事」か「産業」なのかといった表現も気になる。総合計画が、絵にかいた餅とならないようにといったご意見があったが、どのような結果が出たら、そうでなかったのかと判断できるかが、具体的に見えていないと、スローガンだけで終わってしまう。例えば、高校生や大学生にもしっかり計画書について考えてもらえるような取組も必要だと思う。審議会が始まる前に、市民ワークショップをしたように、計画ができてからも、ご意見を聴く場があったら良いのではないか。例えば、高校生を集めて、市としてはこの方向性でまちづくりをしていきたいと思っているが、自分たちに何ができるかを話し合わせるなど、そのような取組ができれば良い。大学生でも良い。また、市民説明会は参加者が少なかったが、形を変えてワークショップ形式で募集をしたら、もっと集まったのではないかと後から思った。市民ワークショップで集まった人たちに、もう一度連絡をして、あの時もらった意見がこのような形になったというようなことができたら良かったのではないか。ここまでつくりあげて来られたのは皆様のおかげだが、もう一歩、進めていただけたらと思う。

【会　長】　写真や文章について、ご意見をいただいた。「選ばれるまち」の表現は、住んでいる人も住み続けていくことを選んでいるという解釈になるが、この表現が分かりにくいということであれば、「住み続けたいまち」といった表現を使ってはどうか。「まちづくりに参加しよう」は重複しており、それだけ重要だといった理解もできる。どちらかというと「わたしたち一人ひとりが主役」といった表現が、目立つようになった方が良いのでは。また、計画のゴールとして、今回、総合計画にも記載したとおり、市民のしあわせを測っていくということをやらなければならない。もう一つは、総合計画の指標の達成である。一番重要なメッセージは、総合計画をつくって終わりとするのではない仕組みづくりだと思っている。朝来市では総合計画の策定が終わってもワークショップを続けている。

【事務局】　「今を生きる」という表現は、「これからのこどもたち」という視点が踏まえられていないように見えるというご意見を踏まえ、修正を検討する。「みんなに選ばれるまち」という表現についても修正を検討する。「まちづくりに参加しよう」という項目名についても修正を検討する。計画のゴールについては、概要版の７ページの右下に、将来像につ

いて説明文を記載しているため、ご理解をいただきたい。
写真も１枚で 100 点といったものは難しいが、文章に合ったものを改めて、事務局で精査させていただきたい。

【委　員】　資料３の３ページの「スポーツ」について、丹波市発祥の「囲碁ボール」のような高齢者・障がいのある人、こどもでも楽しめるものの記載があっても良いのではないか。７ページの「産業政策」のピクトグラムについてはこれしかないのか。「環境政策」についてのピクトグラムもグレーだと少し分かりにくい。

【事務局】　ピクトグラムは、パブリックコメントでもいろいろとご意見をいただいた。１つの図ですべてを説明できるものではないため、設定は難しいが、これまでの議論でもたくさん意見をいただいてきたので、事務局としてはこのままで進めていきたい。

【会　長】　今のところ、事務局としてベターな設定をいただいているということだと思う。必要があれば、今後の修正について事務局に一任する。答申後の計画（案）は、ホームページに公開いただく。

４．その他

（1）小・中学生の絵画作品の応募結果について【資料４】

・・・・事務局より資料４について説明

（２）今後の予定

・第３次丹波市総合計画の答申
日時：令和６年８月９日（金）午前 10 時 30 分から
場所：丹波市役所　本庁舎２階　応接室
出席者：杉岡会長、山口副会長

【副市長】　総合計画については、令和４年 10 月から審議を重ねてきた。これほど委員の皆様が楽しく意見を重ねてきた事例はないように思う。自治基本条例を見ると、市が主体で対応すべきことは「～なければなりません」という表現だが、第５項では「広く市民の参画を得るものとします」という表現になっている。本来であれば、「参画を得なければならない」とすべきものだと考えている。皆様には、広く市民の代表としてご議論をいただいてきた。熟議をいただいてきたなかで、すばらしい将来像を設定してもらえた。計画策定の過程では、デジタル技術を活用したアンケートやこどもたちへのアンケート、絵画の募集では 193 点の応募をいただき、こどもたちの意見等も多く反映しながら策定を進めることができたと考えている。市民が計画を身近に考えられる工夫を凝らしていただいた。この後は、行政が責任を持って、こどもたちを意識しながら、計画策定を進めていく。委員の皆様におかれては、約２年間に亘る審議をいただき、厚くお礼を申し上げる。

【会　長】　15 回の審議会に参加してくださった委員の皆様、そして計画策定に参画してくださった市民の皆様には感謝をお伝えしたい。事務局においても、タイトなスケジュールのなかで業務をこなしていただいた。本当に、一つの作品として仕上がったと思う。他でもこのような審議会にいくつも関わってきたが、15 回も開催した事例は初めてである。ただ、これまでの過程を振り返ると、これくらいの回数の開催が適切であったんだろうと感じた。そのキーワードは、対話と参画であった。審議会そのものを対話により進めていくことに意味があったと思う。楽しく、話しやすい場として、これが標準モデルとなればと考えている。総合計画は策定がゴールでなく、これからがスタートである。作るプロセスにおいて参加・対話をしてきたので、つくった以降の進行管理にも同様なことが求められると考えている。そのためには、まずは広報をより充実させていくことが重要である。概要版も使わない手はない。自治基本条例でも進行管理について、記載されており、これは事務局への課題とさせていただきたい。ウェルビーイングや指標について、具体的にどのように管理していくのか。年度ごとの計画の見直しについても、誰がやるのか、明確にまだ示されていない。ここに、広く市民の参画を得る仕組みができることを期待する。活きた総合計画にするため、事務局には大きな宿題としたい。

【副会長】　この審議会で知らなかったことが知れ、多くの学びがあった。審議会は本日をもって解散となるが、今後の進捗についても委員の皆様に見守っていただきたい。また、どこかでお会いすることも多々あると思うので、その際には情報交換をお願いしたい。いろいろとご審議をいただき、皆様に感謝申し上げる。

５．閉会

以上